

Taketa City Gikai News

NO.36

平成26年11月1日発行

たけた 市議会だより

- 予算特別委員会を終えて 2
- 9月の定例会 議決結果 3
- 一般質問 4~9
- 行政視察報告 10~12



写真左から
吉野広恵さん(竹田南高)
第3位入賞の足立歌音さん(帝京大学高)
第1位の岡友一さん(岡山県立倉敷青陵高)

声楽コンクール ミニコンサート



8.78億円増額の補正予算を可決

予算総額210.78億円

平成26年第3回定例会は、9月4日から26日までの23日間を会期として開かれました。この定例会では、初日に19案件、最終日に12案件の議案等が提出され、条例の制定・一部改正、補正予算、決算認定のほか、陳情、意見書案など合計36案件について審議を行い、それぞれ別記のとおり決定しました。

平成26年度竹田市一般会計補正予算（第4号）については、歳入歳出ともに8億7849万2千円の増額で、予算総額210億7808万6千円となった。

補正予算の歳出の主な内容は、**総務費**では、社会保障・税番号制度システム導入に伴う電算システム等変

更委託料1194万5千円、平成25年度決算剰余金処理に伴う財政調整基金積立金2億5千万円、減債基金積立金2億円、公共施設建設基金2億円、町づくり文化基金1億円等をそれぞれ増額し、デジタル地番図作成業務委託料1200万円を減額計上した。**民生費**では、平成25年度の事業費確定に伴い障害福祉費国庫県費返納金987万8千円、生活保護費国庫負担金等返納金3219万1千円を増額し、暮らしのサポートセンター運営事業委託料のうち、大分県の補助事業に該当したため生じた不用額1166万4千円を減額計上した。**衛生費**では、簡易水道事業特別会計繰入金1219万6千円を増額し、衛生センター運営業務委託料200万円を減額計上した。**農林水産業費**では、農林業施設雪害復旧緊急支援事業による被災農業者向け経営体育成支援事業費の補助金変更申請により、園芸分4477万7千円を増額し、畜産分1億2788万9千円を減額計上。併せて、農村基盤整備促進事業1010万円を増額計上した。**商工費**では、中心市街地活性化基本計画の策定を主とする中

心市街地活性化事業1102万9千円、地域資源である温泉を活用した温泉フォーラム開催事業補助金50万円等を増額計上した。**土木費**では、市道維持補修工事請負費1850万円、稲葉川やすらぎ公園の堆積土砂を浚渫する公園施設設備等整備工事請負費687万円等を増額計上した。**消防費**では、消防庁舎周辺整備に係る消防施設設備等整備工事請負費600万円、防災士の養成や防災研修を目的とした自主防災組織活性化支援センターへの負担金53万円を増額計上した。**教育費**では、社会資本整備総合交付金事業を活用した文化会館設計監理等委託料5279万4千円、埋蔵文化財発掘調査事業1236万8千円、岡城跡保存整備設計監理等委託料1000万円を増額計上した。

一方、歳入では、額確定に伴う平成26年度普通交付税8754万6千円、国庫支出金5470万円、繰越金8億6307万円、臨時財政対策債4835万6千円等をそれぞれ増額し、県支出金4196万1千円、繰入金1億3724万7千円を減額計上した。

平成26年 第3回定例会

平成26年9月4日～26日
議案・陳情・意見書案等の議決結果

議決結果

条 例 案		
議案番号	件 名	結果
議案第83号	固定資産税及び都市計画税の納期の特例に関する条例の一部改正について	可 決
議案第84号	竹田市国民宿舍直入荘条例の一部改正について	可 決
議案第85号	竹田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準を定める条例の制定について	可 決
議案第86号	竹田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	可 決
議案第87号	竹田市身体障害児及びひとり親家庭の医療費の助成に関する条例の一部改正について	可 決
予 算 案		
議案番号	件 名	結果
議案第73号	平成26年度竹田市立こども診療所特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第74号	平成26年度竹市長湯温泉療養文化館特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第75号	平成26年度竹田市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第76号	平成26年度竹田市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第77号	平成26年度竹田市介護保険特別会計補正予算(第1号)について	可 決
議案第78号	平成26年度竹田市簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第79号	平成26年度竹田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第80号	平成26年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第81号	平成26年度竹田市国民宿舍直入荘事業特別会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第82号	平成26年度竹田市水道事業会計補正予算(第2号)について	可 決
議案第90号	平成26年度竹田市一般会計補正予算(第5号)について	可 決
決算認定案		
議案番号	件 名	結果
認定第1号	平成25年度竹田市水道事業会計決算の認定について	認 定
認定第2号	平成25年度竹田市一般会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第3号	平成25年度竹田市立こども診療所特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第4号	平成25年度竹市長湯温泉療養文化館特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第5号	平成25年度竹田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第6号	平成25年度竹田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第7号	平成25年度竹田市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第8号	平成25年度竹田市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第9号	平成25年度竹田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第10号	平成25年度竹田市浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第11号	平成25年度竹田市国民宿舍久住高原荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第12号	平成25年度竹田市国民宿舍直入荘事業特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
一 般 案		
議案番号	件 名	結果
議案第88号	市道路線の廃止について	可 決
議案第89号	市道路線の認定について	可 決
陳情・意見書案		
議案番号	件 名	結果
陳情第1号	「城下町再生プロジェクト」に関する陳情	継続審査
陳情第2号	歴史資料館の廣瀬武夫像の撤去に関する陳情	不採択
陳情第3号	「手話言語法(仮称)」の早期制定を求める意見書の提出を望む陳情	採 択
意見書案第4号	「手話言語法(仮称)」の早期制定を求める意見書	可 決

賛否一覧表

※賛成・反対の双方があった場合のみ表示しています。

議案番号・件名	議員名(議席番号順)														審議結果				
	佐藤美樹	鷲英彰	山村英治	阿部雅彦	渡辺克己	岩屋千利	徳永信二	佐田啓二	日小田秀之	坂梨宏之進	森哲秀	加藤正義	吉竹悟	本田忠		和田幸生	後藤憲幸	足達寛康	中村憲史
議案第72号	平成26年度竹田市一般会計補正予算(第4号)について														可決				
議案第72号に関する修正案	●	○	○	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	否決

※議長は表決に参加しないため、表決結果は空欄

表の見方……○：賛成、●：反対、－：除斥、欠席もしくは棄権

一般質問

市政を問う

9月10日・11日、9人の議員が一般質問を行いましたので、その内容を要約してお知らせします。
なお、原稿は質問議員本人が執筆しています。

吉竹 悟



林業政策について

問 市の約70%は山林原野である。木材の価格低迷が続いているが、森林施業計画に基づく管理では、荒廃が進む。「定住促進・ニュータウン構想」をより活性化させるために、市内で建築に携わる業者及び市内産の木材使用で助成するなどの制度を構築してはどうか。
林業振興室長 林業採算性の悪化等により、森林の適正管理が危ぶまれている。林野庁が、平成25年7月から需要拡大の支援を行う「木材利用ポイント事業」は、利用率が50%未

満であったため、再度27年5月末まで延長している。本市においては木材業者等が竹田産を利用できる体制が不十分であるので、今後は、森林組合は勿論のこと、市内製材業者や建築業者等との協議を重ね、竹田産木材が利用できる体制作りが急務である。林業生産活動が活発となり、持続的な林業の確保や山村経済の発展にも寄与できるので導入するべき補助制度である。前向きに検討したい。

鳥獣害対策について

問 猟友会の活動はどうか。
農政課長 年々捕獲拡大の要求が高まっているが、後継者の育成が鈍化している。「出来る限り頑張りましょう」とした意思統一の中で取組を行っていた。平成25年度のイノシシ捕獲頭数は899頭、シカは664頭と増加している。シカについては22年度と比較して10倍

以上捕獲している。



▲捕獲打ち合わせをする猟友会の皆さん

問 捕獲後の処理状況はどうか。

農政課長 狩猟者自らの消費や狩猟法に基づき土中埋設しているが、地形によっては、猟友会も大変苦勞をしていると聞いている。獣肉の処理加工は、捕獲方法の変更や流通システムの構築など、課題克服する必要がある。24年度に設置された大分狩猟文化振興協議会が、利活用講習会や狩猟肉フェアの開催も始めたと聞く。また、「日本ジビエ振興協議会」も発足している。今後は県内外の情報を収集し、「ジビエ」による収入確保が図られるよう検討する。
このほか地域交通のあり方について質問をした。

阿部 雅彦



竹田市文化会館の周辺整備の展望について

問 有効活用できる土地はどの程度確保できるのか。
建設課長 建物の配置と駐車場の確保をし、可能な限り河川敷地の有効利用を考えたい。

問 緑あふれる市民公園の併設を目指してはどうか。
生涯学習課長 今後プロポーザルで選定される設計業者と、基本設計の中で十分協議していきたい。

問 JRの新駅の設置を考えてはどうか。
企画情報課長 JRの新駅の設置はハードルが高いと考える。当面は、豊後竹田駅からの、その他の公共交通機関の活用を考えたい。

市民提案型地域活力創造事業について

問 これまでの取組の成果と課題は。企画情報課長 今回は16団体の参加があり、地域コミュニティー再生に向けた取組になった。課題としては、プレゼンテーションや審査方法についての検討をしたい。

問 来年度の実施要項はどうなるのか。

企画情報課長 今年度採択された事業についても、再チャレンジできることを考えたい。

問 市民・職員・議会からの政策提言について、どのように活用していくのか。

市長 市民から発せられたポトムアップのシステムにより、魅力的な竹田市をつくる路線でいくべきだと考えている。

保育所と幼稚園の今後の在り方について

問 幼保二元化の竹田市としての方向性は。

福祉事務所長 将来的には子育て支援の充実のため、認定こども園の整備を考えている。

学校教育課長 当面、公立幼稚園については現状維持でいきたい。地域

の声や国の動向を見極めながら、就学前教育を充実させたい。

問 子育て支援の立場から、更なる保育料の軽減はできないか。

市長 所得に応じながらのきめ細かい保育料のランクの設定については、担当部署と検討し提案していきたい。



岩屋 千利

社団法人日本ウエイクボード協会による事業の取組について



問 同協会が予定しているウエイク

ケーブル事業の建設計画では、九州の拠点施設として直入町の長湯ダムが有望な候補地との情報に接し、活動中の地域資源活用懇話会をはじめ関係団体の代表者等と協議した結果、市の施設設置に向けた積極的な取組を求めることで衆議一決、過日、市長宛にその旨を付した要望書の提出をしたが、その後の取組は。

直入支所長 本年4月、協会関係者

が来所、同事業計画の説明があった。要旨は、九州に一か所設置、現時点では、豊富な温泉が近場にある長湯ダムでの取組が有望と話されていた。

市長 本市は温泉、高原、湧水、史跡等豊富な資源に恵まれ、それぞれが高いポテンシャルを備えている。これらの地域や資源に弾みがつく魅力ある施策をと考えていただき、誠に時宜を得た申し入れと考えている。市として地域振興を図っていく上からも積極的な支援、取組をしていく。

問 この事業で想定される長湯ダムの利活用に関する新たな契約と既存の契約との整合性と、その取扱いは。

直入支所長 既存の契約は存在するが、その何れもが親水スポーツ等に

関するもので、今回の事業との整合性もあり、調整を図りながら対応していく。

問 高齢化や後継者不足の状況下、畜産の現状と今後の振興策について。

畜産振興室長 高齢化等により、60歳以上の畜産従事者の割合は63%に達し、今後更に厳しくなる。しかしながら後継者がいる農家では経営規模等も拡大傾向にあり、今後親元就農対策等にも積極的に取り組む。更

に、管内では久住地区のみで活動している後継者グループを、他の3地区でも組織化し、後継者対策の一助としたい。

問 防火対策としてのジェットシューター等の有効な貸し出しについて。

消防長 同防災備品は消防署、消防団、各支所で貸し出しをしている。これらの有効活用は林野火災等防災対策上極めて有効であり、貸し出し制度の周知徹底、充実強化に努める。



▲長湯ダムケーブルパーク完成予想図

佐田 啓一



行財政改革と職員の健康管理

問 今後の行財政改革の在り方をどう考えているか。

総務課長 合併以来、2次にわたり計画を立てて進めてきた。職員の配置については、議員ご指摘の通り、市民サービスの低下を招かないよう定員管理を行ってきた。当初目的としていた平成27年4月1日の職員数326人はクリアする予定。この10年間で127名の削減ができた。今後も引き続き定員管理を進める。

問 一人1係となつてはいないか。これ以上減らせば、市民サービスは低下する。職員の負担も限界だが。

総務課長 単に退職不補充による人員削減を行うものではない。他市に比べ、なぜ竹田市の職員が多いのか調査・検討する。一人の職員に負荷がかかりすぎないように、グループ性

も視野に改革する。

問 労働安全衛生対策について。

総務課長 労働安全衛生委員会を設け、職場環境を調査し改善に努めている。職員の総合健診を実施、平成25年度は98・2%の受診率。要精密検査が24%、全職員対象にメンタルヘルスセミナーを実施、該当者はカウンセリングで対応している。

問 四人に一人は多い。人事異動に問題はないか、職員の意向調査や適材適所の配置を要望する。数十名が病氣予備軍、この状況をどう捉えるか。また、メンタルヘルス対策は。

市長 なぜメンタルの面でこんな環境に馴染めない職員が出るのか。管理職による職場の分析をするよう指示している。適材適所の面から言えば若手はやっている、中間管理職は使命感・責任感・スピード感を持って力を発揮していかないと職場が停滞する。事務事業の効率化を図



る努力は、自らがしなければこの厳しい行財政改革は乗り越えられない。気概を持って仕事に臨むことが何よりも大切。機会あることに職員に話している。

組織として対応するよう求め、この質問は終えた。その他「子ども子育て・新支援制度」について市の取組状況を質問した。

山村 英治



入札制度改革について

問 6月議会の一般質問答弁で、随意契約の公表を検討するとあったが、入札制度検討委員会でのように検討されたのか。

副市長 来年4月1日から随意契約を公表する。

問 昨年度に行われた阿蔵地区小規模住宅と消防庁舎建設工事の入札内容を問う。

入札・検査課長 小規模住宅工事は、2社が入札に参加。1社が辞退



▲完成した阿蔵住宅

して、99・2%の落札率。消防庁舎工事は2社が入札に参加。1社が無効。落札率は99・8%。

問 これから図書館や文化会館の大規模建設工事が始まるが、竹田市には現在A級の業者が1社あるだけ。要件設定型総合評価一般競争入札方式を続けられ、1社独占の可能性もある。ここ数年の落札率は非常に高い。自然競争による要件設定型的一般競争入札を検討してはどうか。

副市長 現状の入札方法を続ける。要件設定について、外部の専門家の意見を聞くことを検討する。

農業振興策について

問 由布市においては、過年の県営圃場整備事業地元償還金未払い分を損失補償条例により市が代位弁済する執行部提案があると聞くが、営生地区の補償問題は同例ではないか。

農林整備課長 由布市は、農協と市とで損失補償契約を結んでおり、竹田市は農林漁業金融公庫と結んでい。条例にも違いがあることから同例は存しない。

問 由布市も公庫と損失補償契約を結んでいると聞く。県営事業では、地元主体となる土地改良区のないときは、工区ごとに代表者が借用書を作り農協転貸公庫資金を借り、一次納付義務者の市がその資金を県に納める。市は地方自治法二四四条の規定により、分担金として農家から徴収していく。由布市は農協に徴収事務を委任をしたので、農協と損失補償契約を結んでいる。このことから営生の件は同例と考えるがいかがか。

農林整備課長 条例の条項に違いがある。同例は存しないと考える。

そのほか、公共施設整備計画（収支所移転）について質問をした。

佐藤 美樹



久住の観光振興について

問 久住の観光振興ビジョンと計画内容は。

久住支所長 ドイツの「わが村は美しく、わが村には未来がある」運動を久住の村づくりビジョンに取り入れ、景観の維持、環境保全、特産品のブランド化を進める。入山公生誕400年プロジェクト、環境省ビクターセンター設置や文化歴史事業、東京オリンピック合宿誘致等を計画している。

問 ビクターセンター設置計画の概要は。

久住支所長 国立公園指定80周年記念の本年中に具申の予定。場所は市有地の久住沢水を想定。環境省直轄で設置するので、建物本体の建設費や土地取得の負担はない。運営管理は地元で考えている。

問 登山バス計画の進捗状況は。

久住支所長 市長と職員が調査登山をした。バス運行は、有氏から今水と板切の2コースが実現可能であると考える。バス購入は国の全額補助で導入予定。

問 観光で外貨を得ることが大切だと考えるがいかがか。

市長 外からの経済を内に引き込む仕組みを久住で作り上げる。

介護職の現状と対策について

問 当市の介護職の現状と在宅介護をする方への支援策は。

保険課長 介護のための定年前退職者が市内で11名、定年前退職者の婦郷が21名報告されている。介護度により、介護用品支給、介護慰労金などの財政的支援制度がある。竹田市在宅医療推進協議会を立ち上げ、医療と行政が連携し、在宅介護の支援を行っていく。

問 在宅介護に対する企業・社会の理解が必要である。企業への指導をどう行うのか。

商工観光課長 育児・介護休業法に定められた介護休業制度等の周知を図る。ハローワークや商工団体と連携し、指導に取り組む。

その他、合同企業面接会の開催と介護職の人材確保について質問した。

渡辺 克己



問 図書館建設の基本構想はプロポーザルで業者選定をし、策定したものであった。議会にも説明し、市民には4月25日にフォーラムを開催し、広く市民にその内容を知らせたものである。実施設計者の選定のプロポーザルが実施され、一度は基本構想と大きく異なるものであったが、議会の「基本構想を尊重すべき」との提言により変更された。基本構想の位置づけをどう考えていたのか。

図書館長 建設に係る面積等のハード面、現状や問題点などから目指す将来像が描かれている。今後財政状況を考え、住民ニーズに対応していく。

問 実施設計作成の途中において市

民が協働できる場を設けては。

市長 設計業者は当然行うと思われるが市としても提言していく。

問 実施設計業者選定プロポーザルの内容変更について、審査委員会への説明はどうされたのか。

図書館長 規則では委員会の開催が前提であるが、時間的余裕がないことから、委員長長の許可をえて全議員に連絡し承認を得たものである

問 文化会館の基本構想の取りまとめについて、どう考えているのか。

市長 要求要望の形が見えない、基本設計で具体性ある資料の提供をし、議論を深めたい。

問 文化会館の資料を議会に対して示してきたのか。

市長 文化会館基本構想から基本設計を作成し、その後に議論をしていく過程となる。

問 文化会館の構想に専門性は必要がないのか。災害への対応、高齢化に対応する規模決定、類似施設とのすみ分け等はどうか。

市長 図書館より文化会館の方が複雑であり議論しても分らない。そのため空間の示し方をより具体性を持つものとする。類似施設は地域で

活用されていく。中央の拠点施設としての貸館業務だけではない、他の施設にできない楽しみを創出して、市ならではの文化会館とする。

問 基本設計と実施設計を同一業者で実施する。事業費増となるのではないのか。

市長 23億円を指定するプロポーザル方式であり、事業増とならない。



市に寄贈をいただいた財産の取り扱いについて

問 片ヶ瀬地区にあった私邸を、寄贈していたいただくまでの経過について

企画情報課長 当地区は歴史的に、また文化的に大変重要で、今回寄贈をいただいた土地、建物、唐椿、美術品等は地元の希望もあり、また現在の所有者にもご理解いただき、寄贈していただく事となった。

問 竹田市の方から寄付の要請をし

たのではないか。

市長 元の所有者は亡くなっているため、二人の娘さんとお話しした。大変重要な歴史的遺産であり、何とか残したいという事であったため、市と思惑が一致した。

問 その重要な文化遺産の一部が撤去されているが、その経過と理由について。

企画情報課長 本宅については、改修の必要があった。しかし基礎部分の劣化が激しく、改修に耐えられないことが判明した。残念ではあったが、ご家族立会いの下、現地で協議の上、本宅部分の取り壊しを決定した。

その他、歴史的にも文化的にも重要な物が寄付されたにもかかわらず、なぜ撤去されたのかを問い、撤去にかかった費用（取り壊しと産廃処理）の予算処置の内容、更に建物の中にあつた歴史的に価値のあるものの提示を求めた。

竹田市の移住定住の諸施策について

問 農村回帰支援センターと「集」及び「竹田総合学院(TSG)」との関係について。

企画情報課長 「集」は移住定住の

窓口であり、移住者の情報交換と交流の場、工芸家のギャラリーとなっている。「竹田総合学院(TSG)」はインキュベーション型工房、アートホール、さらに芸術家の誘致の拠点となっている。



▲工房利用の様子(竹細工)

問 人口減に歯止めをかけるには、農業後継者の定住は重要だと思いが、その施策について。

農政課長 外的要因や経営所得の不安定が大きな要因だと考えられる。農地の維持や有効利用を含め、国や県、市がいろんな施策を行ってきているが、起死回生とまでは至っていないのが現状である。

※インキュベーション型工房……市内での起業を志す工芸家等を支援する工房



教育問題について

問 今年4月に実施された全国学力テストの結果は。

学校教育課長 昨年度まで小学校の正答率が全国・全県平均を上回ることが出来なかった。本年度大きく伸び、初めて小中学校全ての教科で、全国及び大分県平均を上回った。小学校の国語・算数のトータルは県内3位、中学校の国語・数学も県内3位、小中校トータルの順位は県内2位、市の部ではトップとなった。中学校の国語は県下で1位となった。

問 活用を問う問題では、無回答が20%あった。この指導をいかに行うのか。

学校教育課長 全体の結果を受け、各学校で自校の分析を徹底し、成果と課題を明らかにし、授業改善を行う。最終的には、児童・生徒個々の

具体的なつまづきや課題が克服されたかを検証しながら、くり返し実践の改善を図る。教師が一方的に教え込むのではなく、児童・生徒が主体となり、自ら考え探求して行く事の楽しさを実感する授業を追求していく。「新しい学びのプロジェクト」との連携による「協調学習」を推進する事が、子供達の思考力を向上させていく重要な要素になると捉えている。

問 小中学校でいじめや不登校の現状は。

学校教育課長 いじめの認知件数は、小学校は昨年度12件、本年度1学期4件、中学校は昨年度16件、本年度9件。不登校が、昨年度は中学校17人、本年度11人、小学校1人。不登校の出現率は3・53%で県平均3・27%より高い。



「市民との意見交換会」を開催します

期日 ■ 平成26年11月11日(火)・12日(水)・13日(木)

時間 ■ 午後7時～8時30分

多数の皆様のご参加をお待ちしております



▲昨年の様子(宮砥分館)

問 いじめ、不登校問題解決に向けての取組は。

学校教育課長 いじめは重大な人権侵害である。これに対する危機意識を常に学校自体が持つておくこと。子供達にとって、学校が楽しく充実し実感が得られる活動を推進する。

不登校の未然防止と初期対応の徹底取組を、より強化する。欠席時に対応する早期対応、小学校と中学校の連携の在り方等、「不登校を生まない学校づくり」の研究と実践を深めていく。

開催日時	会場	対象地域
11月11日(火) 午後7時～8時30分	岡本分館	竹田東部(竹田、岡本、明治、豊岡)
	玉来分館	竹田西部(玉来、松本、菅生)
	文化財管理センター	竹田北部(宮城、城原)
11月12日(水) 午後7時～8時30分	萩公民館	萩地域
	久住公民館	久住地域
	直入支所大会議室	直入地域
11月13日(木) 午後7時～8時30分	姫岳分館	竹田南部(入田、姫岳、宮砥)

行政視察報告

総務常任委員会

委員長 岩屋 千利

去る7月8日から同10日まで、長野県佐久市、同県中野市において行政視察研修を行った。まず佐久市では「環境エネルギー重点プラン」について研修した。同市ではエネルギー分野における急激な社会情勢の変化に対応するため、市独自の重点プランを策定している。その内容は、市内における再生可能エネルギーを用いた電力の自給率8%を目標にして、市民や事業者を対象に太陽光発電や水力発電施設の取組に助成制度を設けている。また、全国トップクラスの日照時間を誇る同市は、市営の太陽光発電所を建設しており、年間発電電力は1990キロワット（550世帯相当分）と壮大である。事業効果として、太陽光発電の普及と企業誘致の促進、更には観光施設の一つとして位置づけたこ



▲佐久市営メガソーラー発電施設

とから、地域の活性化に対する相乗的な効果も生まれている。加えて、売電による利益の有効活用からなる地域づくりへの効果等々を挙げられていた。近時の原子力発電所の再稼働等をめぐる社会情勢は、エネルギーをめぐる我が国のあり方の大きな転換期を迎えており、特に全国の自治体が等しく共有する重要なエネルギー資源である太陽光の有効活用に向けた取組は、私どもの竹田市においても喫緊の課題であることを痛感した。

次の研修地は長野県中野市で、同市と旧竹田市は昭和42年以来、音楽姉妹都市としての交流を続け現在も

続いている。同市では「地域公共交通の確保」について研修を行った。

中野市は市の全域を対象に「中野市地域公共交通連携計画」を策定しており、基本方針の一つとして、公共交通不便地域の解消を目指している。具体的な目標として、利用不便地域の改善率を90%（計画時55%）に、バスの運行サービスの改善策として市の中心市街地への対応率を90%（計画時75%）、一便当たりの平均利用者数を9人（計画時7.6人）にそれぞれ引き上げることとして鋭意取り組んでいる。特筆すべきこととして、この取組が市や商店街、タクシー業界はもとより、大量輸送が可能な鉄道軸を活かした持続可能なものとするため、「パークアンドレール」システム（自動車と鉄道の連携）の普及に向けた駐車場の整備等にも力を入れている。関係機関や団体が共通の目的意識のもと連携し、交通弱者の移動支援を基本とする持続可能な公共交通体系の構築を目指し、組織的に取り組んでいることに共感を覚えた。この外、姉妹都市の縁となった中山晋平の記念館等を視察、意義深い研修となった。

産業建設常任委員会

委員長 徳永 信一

10月1日から3日にかけて、福島県二本松市、岩手県遠野市を訪れた。福島県では来年4月～6月にDESTINEーションキャンペーン（以下DC）が開催され、引き続き7月～9月は大分県で開催される。その予算化や推進組織、市にとってのDCの位置づけを研修した。遠野市は農地中間管理機構の対応や6次産業化推進の取組が進んでおり、対策の予算化や関連する条例に着目、耕作放棄地解消に至った実例を現地視察した。二本松市や遠野市は、過疎化、少子高齢化、働く場所の確保など、地方都市の大きな課題をかかえている。そのなかで、着実な政策と、現実的な成果を積み重ねて、戦略的に、市民の豊かな将来を描いているまちである。

二本松市で提示された資料の中で、来年のDCに係る収支に着目した。一般会計予算費目全般に置かれた関連数値を一括して、竹田市においても同じもので議会説明を求

めていきたい。DCを「5年後、10年後に残る本物づくり」と位置づけて、これからの観光の礎を作る機会と捉えていた。「観光立市」を掲げて、市内24団体と市長や教育長で構成する推進委員会を設け、将来は「観光戦略会議（仮称）」として今後の戦略母体とする。市民みんなで作り、みんなで発信する観光にしていこうという。事業推進の幹事会権限強化が周知され、市民の支持を得ている。そのためDC期間中は、市内の至る所で総出の歓待が用意されている。竹田市も市民総出のDCにして、訪れる人たちを歓待したい。

遠野市では昨年度から、農地中間



▲遠野市綾織町の回復農地を視察

管理機構による農地の集積のために、農政課と農業委員会、県職員を入れた組織を作り、既に関連する条例等が整備されている。また集落営農の法人化も進んでいる。「耕作放棄地ゼロ宣言市」を掲げて、平成21年度から放棄地対策に力を入れている。毎年8月～11月を農地パトロール月間として調査し、遠野市の耕地面積約7000ヘクタールの内、当時209ヘクタールあった耕作放棄地が、現在は77ヘクタールまで減少している。調査を基に、毎年、農業委員会は荒廃した土地の所有者に指導通知書を送付し、農政課が具体的な対策に向けた話し合いを進めている。視察場所の2ヘクタールの回復農地は蕎麦畑に変わっており、地道な活動の積み重ねの成果である。

二本松市と遠野市は東京電力福島原発の被害対策を進めながら、被災前の豊かさを凌駕するまちづくりに取り組んでいる。心から敬意を表し、一日も早く安心して暮らせる日が訪れる事を祈っている。



主要公共施設調査 特別委員会

委員 佐藤 美樹

文化会館再建、図書館リニューアル、コミュニティセンター構想を受け、議長を除く議員17人を委員とする主要公共施設調査特別委員会を1月に設置した。当市の公共施設建設計画の参考にするため、他の自治体の先進的施設及び運営方法の視察を延べ3日間で6施設行つた。

第一回目、7月2日には豊後高田市と福岡県荇田町の図書館を視察調査した。視察施設の選定基準は、人口規模が当市と差異がない点と建物や運営方法に特長を有する点だ。豊後高田市立図書館は昨年2月にリニューアルし、木造の温かみある建物で、授乳室に加え男性用育児室がある。荇田町立図書館においては書架の高さを低くしており、室内全体が広々としている。車椅子でも利用が可能。囲碁コーナーやギャラリーがあり、利用者の滞在空間にこだわっている。

7月23日には佐賀県武雄市立図書



▲武雄市立図書館

館と伊万里市立図書館を視察。武雄市立図書館は民間のカフェ運営会社と大手レンタルビデオ会社とのコラボレーションで有名で、全国でも大変注目を集めている図書館である。運営を民間企業に委託したことにより、珍しい図書館として新しい観光名所となり、来場者が年間10万人を超えている。伊万里市立図書館は、対照的に市民が運営に深く関わり、司書の資質に重点を置いている。積極的に移動図書館車両の活用を図っている。

いずれの図書館も个性的であるが、市民がどのような図書館を求めているのかを重視すべきだと感じた。

文化ホールについては、7月30日に福岡県八女市と玖珠町の施設を視察。八女市民会館おりなす八女は、平成23年に設計費を含む19億円強の建設費で改装。歌舞伎公演を開催できる機能、つまり、音響、照明、ステージの造り、楽屋等、最上級の設備を備えている。有名歌手のコンサートを多く行い、集客に力を入れる。ただし、駐車場の位置と収容台数に難がある。一方の玖珠町のくすメルサンホールは、平成11年に17億円（設計費は含まず）で新築。ホール座席数716席と大きくはないが、保健センターと公民館を兼ねた多機能施設である。

いずれの図書館、市民会館も機能やデザイン、予算、コンセプトをそれぞれの市民ニーズに合わせている点は大いに参考となった。竹田市に相応しく、多くの方に利用される施設実現のために、視察の成果を充分に活かした議論を行っていきたい。



議員ソフトボール 監督 吉竹 悟

今年の大会は、湯布院で開催。すっかり秋の気配を感じ少々肌寒だった。相手は別府市、以前勝ったような…打順は期待に応えた活躍をしてくれた。

4番渡辺のホームランは勢いを生んだ。しかし、相手のランナーを溜めての一発に大量得点を許し、9点は取ったものの、逆転をすることは、叶わなかった。惜敗であった。次期監督の采配に期待をしよう。

議員陸上 監督 坂梨宏之進

今年の400mリレーの選手はダッシュ力、持久力と両方兼ね備えた議員を選出した。異常といわれるほど今年の雨続きの天気で、練習もままならぬ状態で困ったものだ。選手の皆には、各自で調整願いますと言ったものの心配が残る。

しかし、さすがは竹田市議会議員、持ち前のガッツ力でも走り出した。第1走者は鷲司議員、第2走者は阿部議員、そして第3走者は紅一点の佐藤議員が走り、第4走者の徳永議員にバトンが渡る。夢に出てくるような素晴らしい光景だ。近くで見ていると感極まり涙が出た。8チーム中6位であるがタイムの順位ではない。チームワークとして優勝だ。



第67回 県民 体育大会



▲100m走を“跳ぶ” 鷲司議員

今年、夏を感じた人はどのくらい居たであろう。8月に太陽を見たのはわずか3日程であった。

「26年8月豪雨」と名付けられ、全国を襲った局所的な集中豪雨。またも多くの大切な人命が奪われた。地球温暖化がもたらす脅威は、未だ抜本的な対策が講じられていない。国利国益のためか。

地球・自然を守ることは人類を守ることのはずが…残念である。

現代は異常気象であるが、ただただ被害のないことを願うばかりである。

あしがき

postscript



市議会 ホームページ

本会議の会議録や議会の日程、質問項目、議会のしくみと役割など様々な情報を掲載しています。



竹田市議会 検索